10月分市況報告書　　報告者　中島良晴

調査日　群馬県森林組合連合会共販所　10月1日

今日は市に行って見ると、買い方の姿は一人だけ。 入札結果の発表も今後は行われない。
10月1日より群馬県森林組合連合会の前橋木材共販所は、**”Web入札”**になったとの事である。
私は月に2回ある市の内、月初の方の1回だけしか見に行っていないので突然だったが。
前回の市で予告をして、主な買い方には、操作マニュアルなどを送って説明していた様である。
群馬県森林組合連合会のホームページを開くと”**Web入札システム・会員ログイン**”のアイコンが
出来ていてこれをクリックすると、市の画面に進むことができる。 更に中央に【共販画像】とあり
共販日の日付が並んでいる。 並んではいるが10月1日の市からの施行なので、実際には
これより前の画像は無い。 ”2025-10-01　前橋共販所”をクリックすると今回の売払い物件の
画像と樹種・寸法・本数・材積などの明細が付いて、すべての物件画像が表示される。
更に見たい物件の画像をクリックすると、その拡大画像が木口の画像も付いて大きく表示される。
”会員ログイン”と言う言葉や”ＩＤ”・”パスワード”などと言う、わずらわしい窓が現れるが、物件画像
の一覧までは、**どなたでも見る事が出来る様になっている**ので、一度ご覧頂きたい。
ここから先は、買い方として ＩＤを取得している会員のための入札公告書ページになり、これまでの
入札明細書に当たる情報が掲載されるページになり、次に入札画面になる。
既にＩＤとパスワードでログインしているので、あとは物件番号と入札単価だけを入力すれば入札は
完了する。　後は落札できた物が有れば、請求書が来るだけである。再入札はない。
何しろ、入札結果の発表と言うものが無くなったのである。 私としては、とても困る事になった。
出荷者に対しても、落札できた分だけの精算書が発送される。 極めてシンプルで、スーパーの
セルフレジで買い物をする様なシステムである。 言葉は一切必要なく、再入札の交渉も無い。
森林組合連合会の前橋共販所は開設から66周年になるが、この間入札結果の発表では、
落札・不落札や落札単価の他”２番札””応札枚数”などの情報も公表してきた。
場合によっては、結果発表の席に出荷者も居る事が有り、買い方・出荷者共に落札価格を
取り巻く周囲の状況が判る様に、情報を提供してきた。 しかしこれからは買い方同士も顔を
合わせない市になる。 以前であれば入札室の顔ぶれで「今日はあの人が来ているからスギの太物
は少し高めに入れないと取れない。」とか逆に「あの人がいるなら、今日は無理をしないで、競合
しない物を買おう。」とか言う事もあった。 確かに木材流通の仕組みが変わり、木材はただ物量
だけで計られる時代になった。こうした時代には新しいシステムが必要なのだろう。
だが**実は木材のWeb入札システムは昔からあった**のだ。 主に広葉樹の世界で使われていた。
この場合どこの広葉樹業者も、全国の銘木をカタログの様に見る事が出来た。 わざわざ関西から
東北地方まで、銘木を探しに行く必要が無く、売る側も全国的に市を張る事が出来た。
しかし　既にあるシステムだからと言って、針葉樹の市を強引にこの型にはめ込むのは無理があろう。
今後、このシステムがどの様に成長するかを見守って行きたいが、昨今の無味乾燥とした流通を
見ていると、このシステムが杓子定規に木材界を支配して行く形になるだろう。

調査日　素材生産協同組合　10月7日

こちらの市も土場は閑散としていて中秋の名月を過ぎても未だ秋の素材生産は始動していない。
かつて先人たちは、伐採の時季や伐り方など試行錯誤しながら様々な技を編み出してきた。
その中に”新月伐り”と言う技が有る。なんだか昔の時代劇の様だが、それは今でも踏襲されていて
古くからの伐採師には「良い木を伐るには出来れば新月の日を選びたい」と言う人が少なくはない。
「新月の日に伐った木は虫害が少なく、色も良く上がる。」と言った理由だが根拠は判らない。
事の真偽はいずれにせよ、”月”に拠る伐採の技は多くある。 それほど伐採については時季が
大切であったという事だろう。 ましてや昨日は”中秋の名月” 新月伐りの時季とは反対だが
もう虫害の心配は無くなる頃で、秋の伐採の季節が始まっているという事だろう。
しかしながら、1日の前橋の市でも、今日の藤岡の市でも、土場は閑散としている。
国有林材が多く出品されているが、スギはことごとく虫害の表示がされていて夏の残り物の様だ。
出品量は 140㎥ に少し欠けるくらいなので、もう少し出てくるかもしれない。
ヒノキも量は少なく 67㎥ ほどである。大節”の表示がされていて、正規の計画の産物ではないだろう。
しかしこの様な出品の市でも、買い手は付いている。 製品の市が動いている訳では無いだろうが
買い方は季節を感じている様である。 明細書には、ほとんどすべての椪に”虫”と”大節”の表示が
されているのに、全量がまともな単価で売れている。 しかも素生協の明細書で”虫”や”大節”
”黒芯”“曲り””腐れ””古材”などの表示がされるのは、珍しい事なのにもかかわらずである。
一般材にしても、同じ様に瑕疵が表示されていて、こちらも国有林同様に残り物を片付けようと言う
様な内容でも、まともな単価が付いている。
やはり あの炎熱の暑さがやっと通り過ぎて、温度が下がると虫害の表示が有っても、今以上の
被害の拡大は少ないであろう。と言う安心感があるのだろう。
暑さが過ぎてホッとすると、丸太が欲しくなるのが材木屋のサガの様である。
私もこの血が流れている様なので、自分の感性で理解ができる。 秋からの新材は心のどこかで
ワクワクする物がある。 生業として製材業をしている買い方さん達は、製品相場事情･住宅需要
変わったばかりの政局がどう動くか？ を見極めながら丸太を買っているのだろうが、その根底には
材木屋の本能が流れている様な気がする、今回の市の結果だった。
入札の結果発表は、件数の少なさから、わずか10分ほどで終わったが、価格からみると
応札枚数は割と多かったような気がする。 こちらの市では応札枚数までは判らず。勘で見る
しかないのだが、それも今のうちだろう。 県森連がWeb入札になった今、こちらの市はなんと情報の
多い事だろう。 針葉樹のWeb入札は、まださ程広まってはいない様で ある大手の買い方さんでも
「うちで買っている所でWeb入札は県森連だけ。さほど不自由はない」との事だった。
まぁ いずれはWeb入札でネットショッピングの様になって行くのだろうが。 まだ当分は未成熟なシステム
なのではないか？ 但し普及し始めるとその成熟の速度は加速するから、今からより有利な利用法
を模索し布石を打っておく事は必須であろう。